

(メッセ海外通信 2012年7→9月号掲載記事)

～学生ボランティアの積極的活用策～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
高野 良之

ヨロブン (皆さま) アンニョンハセヨ!

釜山での生活もはや3ヶ月になろうとしています、毎日が発見の連続で新鮮な日々を送っています。

韓国の他の地域でも同様なのでしょうが、釜山ではとにかくお祭りの数が多いことにびっくりします。週末にはどこかで必ずお祭りを行っており、それも一つではありません。またそこではそのお祭りのTシャツを着た多くのボランティアの方々が、楽しそうに様々な業務を担当しています。日本でもボランティアでお祭りに参加する方は年々増えていると思いますが、韓国との大きな違いはボランティアに参加する高校生や大学生が非常に多いことです。韓国ではどのようにこのような若い力を取り込むことに成功しているのでしょうか？本年5月に釜山広域市で行われた「朝鮮通信使祝祭」を主催した釜山文化財団のキム・ヒョンスンさん及び日本語通訳ボランティアとして参加した東亜大学(釜山)の学生であるチ・ミンギョンさんにお話を伺いしました。

<キム・ヒョンスンさん>



・まずは、朝鮮通信使祝祭について簡単にご紹介ください。

ー朝鮮通信使祝祭は、日韓ワールドカップが行われた2002年度に「朝鮮通信使行列再現パレード」としてその産声を上げました。年々その規模は拡大し、今では釜山を代表する祝祭の一つとなっています。また、ゴールデンウィーク期間中に開催されることから、日本からも多くのお客さまにご来訪いただいております、現代における日韓友好を象徴するイベントとしても有名です。

・実際に応募してくるボランティアの数は大変多いとお伺いしました。

ーはい。今回の祝祭では300名のボランティアの募集に対し、1000名を超える応募をいただきました。一般ボランティアについては書類選考、語学ボランティアについては書類選考及び面接により選抜していますが、どなたも優秀なので選考には大変苦労しています。

- ・このように多くの学生が応募してくる理由及び何かアイデアをお持ちであれば教えてください。

ー本祝祭についてはとりわけ日本に対して関心の高い学生の応募が多いことが特徴ですが、一般的に学生がボランティアに応募してくる理由は大きく分けて2つあると考えています。一つは交友関係の拡大、もう一つは自己が持つ能力を活用したいという思いです。後者は特に語学ボランティアですね。私たちはできる限りその要望をかなえるように努めます。祝祭終了後には後日打ち上げを行っていますが、そこでボランティア活動を通じて仲の良くなった学生達が連絡先を交換する風景がよく見られます。語学ボランティアについては、ただの通訳としてではなく、招待都市の市長をはじめとする御来賓の方々のアテンド一切を任せています。大変重い業務ですが、充実感他に変わるものがなく、また担当した都市に興味を抱き、後日訪問したという話も聞いています。

アイデアという面では、特に頑張ったボランティアスタッフに対し、下関市で行われる朝鮮通信使行列再現イベントへの参加旅行をプレゼントしていますが、これも目玉の一つとなっています。

<チ・ミンギョンさん>



- ・これまでにどのようなボランティアに参加してきましたか。

ーこれまでは幼稚園児やお年寄りの方のお世話をし、また夏休み期間には農業ボランティアを経験しました。日本での語学留学を終えた後に日本語通訳ボランティアに参加するようになりました。

- ・ボランティア活動が大学進学や就職活動に優位に働くとお伺いしました。その辺について教えてください。

ーボランティアの内容及び時間について履歴書等に記入を求められ、面接の際には必ずと言っていい程よく聞かれます。また、学校側がそれについて点数化したものを企業側に提出するようなケースもあります。

- ・普段も忙しい学生生活を送られていることと思いますが、それにもかかわらずなぜボランティア活動を行おうと思いますか。ボランティア活動の魅力とあわせて教えてください。

ー普段の学生生活ではできない経験、そこで得た達成感が大きな自信になり、また、普段出会うことのない様々な方と接することにより自分の視野を広げることにもつながります。私は、これまでのボランティア活動の経験により、自分の長所・短所を分析し、将来の目標を定めるに当たり大変よい参考となりました。今後についても積極的に取り組んでいきたいと考えています。

このように、韓国では学生がボランティア活動で与えられた仕事に満足し、その後の就職活動等にその経歴を生かすことができます。また、企業や学校側も学生のボランティア活動の履歴を、採用の際の判断材料にすることができ、イベントを主催する行政側も優秀な若い力をほぼ無償で活用できるというそれぞれにとっての好循環が生まれています。大きな仕事を任せると大きな力を発揮する若い力。その活用方法についてお隣の国、韓国の事例を参考にしてみてはいかがでしょうか。